にぎわい　203 号

～日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信～

島根半島の正月行事（松江市）

～「黒い顔に福よ来い!!」松江･美保関　墨付け神事～

「墨付けとんど」は松江市美保関町片江地区で行われる伝統行事です。

　顔に墨を塗った男性たちが威勢よく神輿を担いで練り歩き、女性たちが住民や訪れた見物客の顔に墨を塗り一年の無病息災を願う正月行事で、約250年前から伝わるとされています。

　法被姿の男性が担ぐ神輿は2基。方結（かたえ）神社を出発し「チョーサダー、チョーサダー」と掛け声響かせながら地区内を練り歩きますが、その途中で地区の女性が沿道や神社に集まった見物客らの顔に、お神酒で溶いた墨を塗り付ける。墨が多く付くほどご利益があるとされ、積極的にほおを出す人もいらっしゃいます。

　最後は神輿を担いだまま海の中へ入り、浜に戻ると家の新築や前の年に結婚した男性、親當（世話役）たちが次々と海へ投げ入れられ、毎年にぎやかな歓声に包まれます。

【日時】： 平成29年1月8日（日）
　　10時頃～12時頃まで

【場所】： 松江市美保関町　片江地区

～鹿島に古くから伝わる左義長神事～

鹿島町の御津、昭栄、古浦、恵曇、手結、片句地区には古くから正月行事として、左義長（別名、トンドさん）と言われる神事が伝えられ、代々大切に守られてきました。

この行事は、大漁や豊作を祈願し、年徳神を祭った神輿と、その年の干支、宝船などを模った干支神輿があり、寒風吹きすさぶ中、法被を着て、天狗などの面をかぶったり、顔にドーランで化粧した若者たちが威勢よく各地区で伝えられた「若松（祝い唄）」を歌いながら、町内中を担いで練り歩く正月行事です。

この「若松（祝い唄）」は、元々同じ唄だと思われますが、長い年月の間に地区毎に調子が異なり、今ではそれぞれの地区で独特の節回しで唄われます。

また、干支神輿のうち、巳年と酉年には干支は作らず別のものを作ります。

理由については、巳年は、干支の形が取りにくいから、酉年については、元々漁師町であり恵比寿信仰が母体であるため恵比寿様のきらいな酉の干支は作らないなどと言われています。

準備は、数ヶ月掛けて入念に作られ、当日は、老若男女がひとつとなり、その年も善き年であることを祈願しながら新年を祝います。

このように、左義長神事は、年の初めを祝う重要な行事であり、干支神輿を担いで練り歩く様子は、漁師町にふさわしい勇壮なものです。

（写真は、古浦地区より提供）

【日時】： 平成29年1月3日（火）
13時頃～16時頃まで

【場所】： 松江市鹿島町　古浦地区ほか